

愛比売

2024(令和6)年度年報



北井門遺跡 9次



北吉田馬場遺跡

辻町遺跡 4次



五十嵐城ヶ谷遺跡



石清水八幡神社参道(遍路道)

五十嵐大株遺跡 2次



朝倉下下経田遺跡 4次



宮之内遺跡

富岡遺跡

はじめに

この冊子は、当センターが2024（令和6）年度に実施した発掘調査事業や普及活動事業などの概要をとりまとめたものです。

2005（平成17）年度から約20年間に渡って継続して調査を実施した今治道路関連の発掘調査は、数々の新しい成果を挙げながら無事に終えることができました。松山外環状道路関連では、記録保存目的としては当センター初となる戦時中遺跡の発掘調査が実施され、こちらも貴重な成果となりました。

また、普及活動事業におきましても皆様の御理解・御協力により多数の参加者や見学者にご覧いただくことができました。

本書が地域における歴史・考古学研究の資料として活用され、県民の方々に埋蔵文化財保護の重要性に対する理解と、地域の歴史への関心を深めていただくことに役立つことができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、各事業の実施にあたり、御指導・御協力いただきました関係諸機関ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

2025（令和7）年5月
公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
理事長 前園 實知雄

I 発掘調査と整理作業

私たちは考古学的な発掘調査、およびその成果を後世に残す報告書の作成に必要な遺物の接合・図化および各種データの分析などの整理作業をあわせて「埋蔵文化財調査」とよんでいます。

埋蔵文化財は法律により保護されていますが、道路等の開発により破壊されるものについては、開発者からの依頼を受け、記録保存を目的として、地方公共団体または当センターのような団体が埋蔵文化財調査を行います。

ここでは令和6年度に当センターが行った発掘調査および報告書の刊行を含めた整理作業について報告します。

なお、報告書を刊行した遺跡の詳細は、当センターより各図書館等に寄贈している報告書および当センターホームページ掲載のPDFにてご覧いただけます。(http://www.ehime-maibun.or.jp)



受託した発掘調査と整理作業

事業主体 (委託者)	事業名称	遺跡名	契約面積 (㎡)		住所	時期	備考	受託金額 (円)
			発掘調査	整理作業				
国土交通省 (愛媛県) 【一部愛媛県・ 今治市とアロ ケーション】	松山管内 埋蔵文化財 調査	C 朝倉下下経田遺跡 4 次	4,831		今治市朝倉下	弥生時代・古墳時代 ～中世		375,199,000
		D 五十嵐大株遺跡 2 次	642		今治市五十嵐	弥生時代・中世		
		E 石清水八幡神社参道 (通路道)	1,241		今治市五十嵐	中世～近世		
		F 五十嵐城ヶ谷遺跡	6,300		今治市五十嵐	弥生時代・中世～ 近世		
		新谷森ノ前遺跡 2 次		7,000	今治市新谷			
		新谷古新谷遺跡 2 次		5,000	今治市新田			
		新谷赤田遺跡		1,000	今治市新田			
		別名端谷Ⅰ・Ⅲ遺跡		11,982 +[2,525]	今治市小泉・ 別名	弥生時代・中世・ 近世	今治市 アロケーション +[4,903,000]	
		H 北吉田馬場遺跡	86 +[819]		松山市北吉田	近代	愛媛県 アロケーション +[14,696,000]	
I 北井門遺跡 9 次	572		松山市北井門	弥生時代・古墳時代・ 中世～近世・近代				
農林水産省 (西条市)	道前平野 農地整備 事業	A 富岡遺跡	796		西条市周市	中世～近世		125,179,000
		B 宮之内遺跡	1,432		西条市宮之内	古墳時代～近世		
		北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡		総面積 (17,135)	西条市安用			
愛媛県	松山駅 西口 南江戸線	G 辻町遺跡 4 次	132	5,035	松山市南江戸	古墳時代・中世		38,016,000

A. 富岡遺跡

とみおか
いせ

中世後期の集落と寺院、青銅製花瓶も出土

道前平野農地整備事業

調査期間：令和6年5月～10月 調査面積：796㎡

担当者：松重竜司 増田晴美 佐野基樹

9号溝の土坑群

富岡遺跡は中山川左岸の自然堤防上、小河川の本郷川くろくちの合流地点に分布しています。今年度は遺跡東側を中心に調査をおこないました。

遺跡には中世後期～近世初頭、中世後期、中世前期以前の堆積があり、中世後期においては砂礫・粗砂が分布する範囲が微高地となり、遺構が認められることに対して、シルト・粘質土・粘土が分布する箇所は微低地の湿地化した環境であったためか、遺構はほとんど見られません。古くから中山川の河川氾濫を受け、また遺跡の南東側を流れる崩口川の氾濫の影響もあり、遺跡全体に幾度の土砂堆積があったことが想定されます。

中世後期では15～16世紀の小穴76基・溝4条・土坑24基・自然流路7条などを確認しました。また、16世紀頃と考えられる溝2条が確認されています。

9号溝は幅約40cmで底面まで浅く、方形に廻り、南東辺で延長約3mを測ります。16世紀頃の土師質土器釜、亀山焼系瓦質土器甕、平瓦などが出土しました。この溝と重複して小穴13・28・9・42が並び、柱間は1～1.2mを測ります。この部分に小規模な掘立柱建物跡が存在した可能性があります。9号溝の南西側には長辺が1m前後、円形を志向した不定形な土坑群が分布し

ています。これらの土坑は砂礫層を中心に分布し、軟弱土壌となる西側にいたると見られなくなります。

16世紀と考えられる3号溝・8号溝は、延長10m以上、8号溝は幅2mほどを測り、堆積土に炭化物が多く含まれていました。溝上部から15～16世紀の土師質土器釜・茶釜、備前焼すり鉢、丸瓦などとともに、鉄釘などの鍛造遺物、鉄鍋などの鑄造遺物、櫛羽口やコンテナ1箱ほどの鉄滓など鍛冶関連遺物が出土しました。近傍に鍛冶関連施設の存在が想定されます。また、特筆される遺物として、青銅製花瓶の口縁部1点が出土しました。



9号溝の土坑群

今回の発掘調査では、青銅製花瓶や瓦質土器火鉢、瓦が破片で出土し、近傍に寺院の存在が想定されます。仏土山西迎寺は鎌倉時代の僧、明尊みょうそんが開いたと口碑に伝わる浄土宗の寺院で、天正13(1585)年、豊臣秀吉の四国侵攻に伴い、小早川隆景軍によって焼失したとされます。今回出土した寺院関連遺物は、この西迎寺に関連する可能性も考えられます。また、西迎寺は江戸時代に仏土山寂光寺じゃくこうじとして再興され、今日にいたります。

(松葉)



青銅製花瓶



遺跡全景

B. 宮之内遺跡

みやのうち
いせき

古墳時代後期から古代の集落

道前平野農地整備事業

調査期間：令和6年4月～令和7年3月 調査面積：1,432㎡

担当者：松葉竜司 増田晴美 佐野祐樹

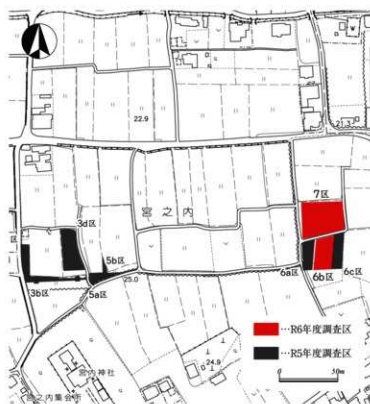
7区 18号掘立柱建物

宮之内遺跡は、道前平野の北部に位置し、高縄山系東三方ヶ森に水源をもつ大明神川によって形成された左岸の扇状地上に立地しています。今年度は遺跡東側の2ヶ所(6b・7区)で発掘調査を実施し、古墳時代後期から近世初頭までの遺構・遺物が見つっています。

古墳時代後期では、7区で竪穴建物3棟を確認しました。2号竪穴建物は平面形が方形で、一辺が6m以上の大型建物です。3号竪穴建物も方形で、規模は一辺が3.75mを測ります。2



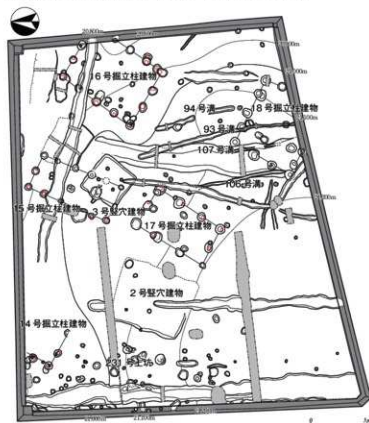
7区 6号掘立柱建物 発掘状況



調査区位置図

棟の竪穴建物は西壁の中央に造り付けのカマドを据えていました。カマド本体は残っていませんでしたが、壁際には煙道と呼ばれる排気口の掘り込みがあり、周囲には炭化物・焼土が見つっています。遺物は土師器甕・壺が出土しました。

古代では、7区で掘立柱建物5棟を確認しました。15号～17号掘立柱建物は桁行(建物の長手方向)が正方位から東へ22～30度、18号掘立柱建物は正方位から西へ75度傾いて構築されています。出土遺物が少なく詳しい時期は不明ですが、15号掘立柱建物が3号竪穴建物廃絶後に構築されていることから、少なくとも古代には存在していたと考えられます。また、15号掘立柱建物は柱穴の直径が50～60cm、柱間距離は1.5mであるのに対して、16号～18号掘立柱建物は柱穴の直径0.8～1m、柱間距離1.8mを測ります。15号掘立柱建物は一回り小さく柱間



7区 下層遺構配置図

距離もやや狭いため、16号～18号掘立柱建物とは建てられた時期が異なる可能性があります。

中世前期では7区で土坑・溝を確認しました。土坑は西側に集中しており、231号土坑は直径80cm程度の円形土坑で、13世紀中頃とみられる瓦器碗が出土しています。その他の土坑も1m前後の規模ですが、配置に規則性はみられませんでした。

93・94・106・107号溝は、検出長が6～14m、幅が20～40cmを測ります。これらの溝は、1.5～2mの間隔で同様の緩い弧を描いて北方向へ流れしており、何らかの目的をもって掘られたと考えられます。

中世後期では、土坑や溝・自然流路を調査区全域で確認しました。この時期も土坑は集中して分布する傾向にあります。中でも、6b区では昨年度調査の6c区を含めて16基の土坑(126・127・134・187～197・206・207号土坑)が2列に並行して掘削されています。平面形は長方形や円形で、大きさは長径0.75～1.25mとさまざまです。遺物は、土師質土器杯・皿、瓦器碗、



白磁碗などの小片が出土しています。複数の重複がみられることから、特にこの場所を選んで造られたと考えられますが、理由や機能については不明です。

1号自然流路は幅約7.3mで、南西側から緩やかに弧を描いて北側に向かって流れています。主に砂礫が堆積し、北側へ向かうにしたがって浅くなっていきます。出土遺物は、土師質土器小皿・瓦器碗・白磁皿・備前焼壺などがあります。最終的な埋没は15世紀前半頃と考えられます。また、北側に位置する8号自然流路も同時期の埋没とみられます。

近世初頭では、土坑・溝が中心で、分布もまばらです。中世から引き続いて居住の利用はされていなかったようです。

今年度の調査から、遺跡東側でも古墳時代後期から古代にかけての集落が形成されていたことが明らかとなりました。この期間の大明神川左岸では安定した環境が広がり、集落が展開していたものと考えられます。一方で、中世に入ると一貫して具体的に居住を示すような遺構は確認していません。自然流路の存在からも、付近一帯は河川に近く、居住には適さない環境であったと考えられます。昨年度調査の6a区で13世紀初頭頃の舍利容器が出土し、遺跡東側を中心に信仰や埋葬といった土地利用の可能性が指摘されています。この状況は、その北側でも同様で範囲はさらに拡大する様相を示しています。(増田)



6b区 中層遺構配置図

C. 朝倉下経田遺跡 4 次

あさくらしももしきょうでん
いせき よし

2 つの川にはさまれた集落

一般国道 196 号今治道路建設

調査期間：令和 6 年 8 月～令和 7 年 1 月 調査面積：4,831 m²

担当者：石貫弘泰 沖野宏 富山亜紀子



朝倉下経田遺跡は今治平野南部に所在し、西は高縄半島の中心山塊から延びる丘陵、南東は世田山・笠松山、北は霊仙山に囲まれています。周辺は朝倉南地区付近で南東から黒岩川、朝倉下地区付近で南から高大寺川が流入するなど頼田川支流が網目状に流れる環境にあります。昨年度の調査に引き続き、今回も 1 次調査地の北西側を h・i・j 区に分割して調査しました。

h 区では、昨年度調査区でみつかった弥生時代中期の畠の可能性のある遺構の続き、または新たな畠がみつかる可能性がありました。しかし、畠の可能性のある遺構と同じ高さの土が、川の氾濫によってほとんど流されてしまっていたことが判明しました。川の氾濫の時期は明確にはわかりませんが、畠の可能性のある遺構の時期は、昨年度の成果で弥生時代中期後葉とされていることから、少なくとも弥生時代後期以降には流されてしまっていたと考えられます。畠が流されたあと、砂の層が幾重にも重なる状況がうかがえ、川の流れがあったことがわかります。

今回の調査では、古墳時代から中世にかけて

の遺構がみつかり、この時期には比較的安定して土地の利用が行われていたようです。

古墳時代の主な遺構は堅穴建物 1 棟・掘立柱建物 2 棟・性格不明遺構 1 基になります。そのうち、堅穴建物が古墳時代後期で、それ以外は古墳時代前期の遺構と考えられます。

古代の遺構ははっきりとはわかりませんが、現時点では h 区の掘立柱建物 2 棟を古代の遺構としてとらえています。

中世の遺構は、i 区でみつかりました。おそろく柱穴と考えられる小穴 32 基が、およそ 6m 四方の範囲で集中的にみつかりました。掘立柱建物の可能性もありましたが、調査段階ではうまく建物の柱を抽出できませんでした。出土遺物の中には、柱穴の中からまとまってみつかった土師器小皿や 13 世紀ごろのものと考えられる青磁碗もありました。

以上のように、今回の調査では、h 区と i 区に遺構が集中していることがわかりました。一方、j 区では調査区内におさまらない大きな



土師器小皿

川がみつかりました。川の流れが複雑であったため、2m 四方の区画を設定し 5cm ずつ掘り下げ、遺物の時期から流路の時期を確認することにしました。0cm～30cm 掘り下げた土の中からは弥生時代中期後葉から中世までの遺物が、30cm～55cm 掘り下げたところからは主に弥生時代中期後葉の遺物が出土しました。したがって、j 区は弥生時代中期後葉から中世にかけて川として機能していたことがわかりました。

今回の調査で、朝倉下経田遺跡の北西側の緑道部を確定することができました。

(石貫弘泰)



D. 五十嵐大株遺跡 2 次

かなし おおかぶ
いせき におじ

五十嵐丘陵裾部の斜面地利用

一般国道 196 号今治道路建設

調査期間：令和 6 年 6 月～7 月・令和 7 年 2 月～3 月 調査面積：642 ㎡
担当者：三好裕之 山口尚志 佐藤直人 岡本芳明 寺嶋信三 岡本良治 堀田晴香



竪穴建物 検出状況

五十嵐大株遺跡は今治平野南西部に所在し、五十嵐丘陵から舌状に張り出した小丘陵の裾部に立地しています。過年度の発掘調査によって、丘陵裾部に弥生時代後期・古墳時代・中世の集落が形成されていることが明らかとなりました。当遺跡の北西部には、中世の鍛冶炉跡が発見された五十嵐数下遺跡等が存在しています。

遺構面は南西から北東に向かって強く傾斜しており、過年度調査で確認された高低差を反映していました。

主要遺構として柱穴 1 基・溝 1 条・土坑 1 基・竪穴建物 1 棟があげられます。柱穴は平成 30 年度に調査された中世の掘立柱建物の一部と考えられます。溝は平成 30 年度調査の 13 号溝と同一の溝である可能性があります。溝からは、青

磁碗の破片が出土しました。土坑からは複数の土器が完形に近い状態で出土しました。土坑は弥生時代後期の土器廃棄土坑だと考えられます。竪穴建物の平面形は隅丸方形で、大きさは 3.2m × 3.16m です。竪穴建物の中では大量の土器がみつかりました。竪穴建物は廃絶した後、少なくとも弥生時代後期に土器が廃棄された可能性があります。土器廃棄土坑とは異なり、すでに破損していた土器を捨てたようです。斜面地に竪穴建物が見つかったことは、五十嵐丘陵の土地利用を考える上で重要です。

今回の現道部の調査では、弥生時代後期の土器一括資料を得られたとともに、過年度本調査の成果を補足する成果が得られたと考えられます。

(山口)



土坑内遺物出土状況



竪穴建物内遺物出土状況



遺跡風景

E. 石清水八幡神社参道 (遍路道)

神仏習合の遍路道

いわしみずはちまんじんじゃ
さんどう (へんろみち)

一般国道 196 号 今治道路建設

調査期間：令和 6 年 4 月～8 月 調査面積：1,241 m²

担当者：三好裕之 山口茜希 佐藤直人 岡本芳明 寺嶋信三 岡本真治 堀田晴香

石清水八幡神社 (弘化6年)

石清水八幡神社は今治平野西部、行政区分では今治市五十嵐^{いかなし}に位置しています。本遺跡は五十嵐丘陵北部に位置しており、神社境内から今治平野を一望できる眺望が良い場所です。また、本遺跡北部には古代において伊予総社と伝わる伊加奈志神社が、南西部には四国八十八ヶ所霊場第 57 番札所の栄福寺が立地しています。さらに丘陵周辺では、北部に中近世を主体とした集落遺跡である五十嵐城ヶ谷遺跡・五十嵐鼻遺跡^{あしたか}が、南東部には中世鍛冶炉群を検出した五十嵐竈下遺跡^{やふした}などが分布します。

今回の調査では今治道路開発に伴い、遍路道として使用されていた神社東参道に存在する 2 箇所の平坦面の発掘調査および参道階段の矢穴痕跡や石碑から、参道が造営された年代の推定を行いました。

【平坦面 1】

石清水八幡神社参道は神社本殿から東に向

かって階段箇所が 22 箇所、踊り場が 23 箇所確認され、平坦面 1 は階段 7 に隣接しています。調査の結果、平坦面 1 は中世後半以降に北側の斜面を埋めて平坦地を造成していることが確認され、遺構は溝 1 条を確認しました。階段 4 付近から平坦面 1 へ続く尾根状の地形の高まりが存在しており、この溝はその地形の高まりから流れ落ちる雨水等の排水用の溝と考えられます。

平坦面 1 の斜面造成土からは古代～中世後半の土器が出土し、古代 (10～11 世紀) では脚高台付椀または皿や、黒色土器などが出土しています。脚高台付の土器は日用的に使用する器ではなく、特別な儀式などに用いられたと考えられています。また、これらの古代の土器は石清水八幡神社の活動が始まる以前の土器であるため、伊加奈志神社や国衛祭祀などに関連する土器と考えられます。

中世の遺物は柱状高台付皿や土師質土器皿などが出土しました。柱状高台付皿も時代は異なり

ますが脚高台付の土器同様に日用的に使用する器ではなく、特別な儀式などに用いられたと考えられています。また、柱状高台付皿は 12 世紀頃の可能性があり、五十嵐の石清水八幡神社が文献資料^{こくふんじんもんじょう} (国分寺文書) 上に記載されるのは 13 世紀以降であるため、文献資料に記載される以前から五十嵐の地で石清水八幡神社の活動が行われていた可能性が窺われる資料になります。



平坦面 1 発掘状況



【平坦面2】

江戸時代中期（近世）に高野山の学僧であった寂本が執筆した『四国遍礼霊場記』（村上護訳1987『四国遍礼霊場記』教育社）の石清水八幡神社の絵図に描かれている「店」の場所と推定して調査を実施しました。調査の結果、小穴52

基を確認しましたが、積極的に建物遺構といえる柱穴の配列は確認できず、堆積状況の確認から、後世に植林等で地面を整地している影響で遺構が削られて不明確になったと考えられます。また、トレンチ調査で近世に平坦面2を造成する際に窪地となっている地形を整地していることを確認しました。その造成土内から中世（12～14世紀）の遺物が出土しており、近隣の尾根等において中世段階での営みがあったことが想定できます。

【参道階段・矢穴】

参道は急斜面で崩れやすい地形となっているため、階段緑石の外側斜面には斜面の崩落防止用と考えられる円礫や角礫の石積箇所が多数確認されました。とくに、階段1の緑石西側で確認された石積は規模が大きいものでした。また、階段13では緑石北側に上下等間隔に列石が確認



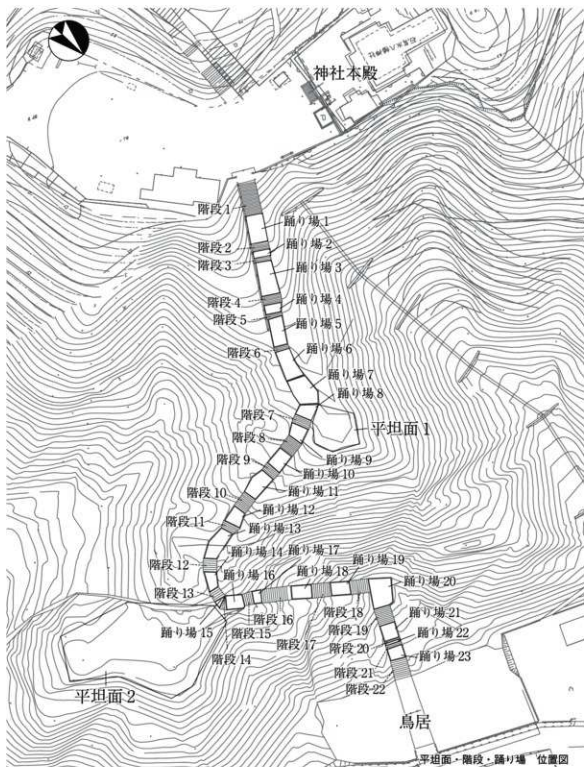
され、石の平たい面を上に向けて並べられていることから補強用の石ではなく旧参道の階段であると考えられます。

東参道の階段には石材を分割するために用いられた矢穴の痕跡が残っていました。この矢穴の法量分析結果から、

18世紀後半以降に急増するタイプの矢穴であることが確認されました。

【石碑】

西参道頂上部に参道階段に付随する石碑が存在し、その石碑には「弘化五」と記載があり、この石碑が石清水八幡神社の参道の中で最も古い年号であったため、東西参道の階段が整備さ

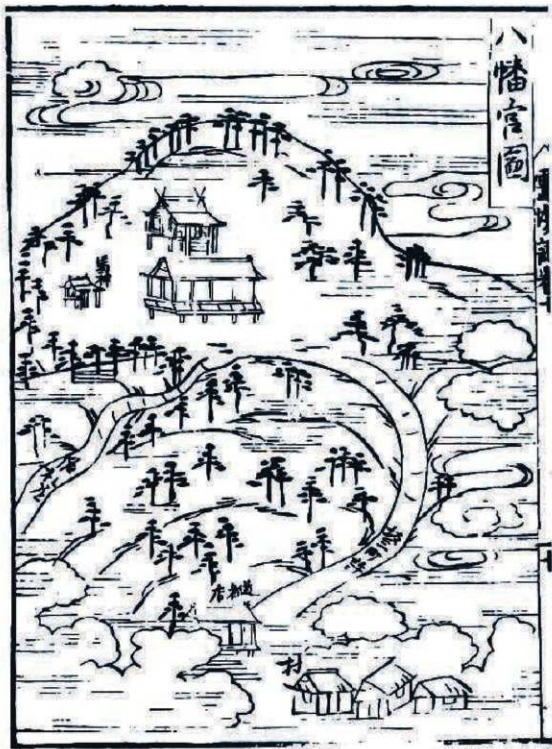


西参道階段 石塊

れた最初の年が弘化5(1848)年であると推測できます。また、東西参道の頂上部に字体は異なりますが、文久2(1862)年に建てられた石碑が存在しており、弘化5年から14年後に東西参道の修繕・改築等が行われていたことが考えられます。これらの石碑と矢穴の年代がおおよそ符合するため、弘化5年に東西参道が造営されたと推察できます。

(佐藤)

※村上渡沢 1987『四国偏礼霊場記』
教育社(原著:寂本『四国遍礼霊場記』七巻七冊(元禄二年版))より引用



石清水八幡神社絵図(※)

F. 五十嵐城ヶ谷遺跡

いかなしじょうがたに
いせき

中世・近世において発展した「門前町」

一般国道 196 号今治道路建設

調査期間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月 調査面積：6,300 m²
担当者：三好裕之 山口尚平 佐藤直人 岡本芳明 寺嶋信三 岡本真治 堀田晴香

区画調査跡跡面と鉄管(旧地蔵)



4 区および石清水八幡神社参道(旧道路)

五十嵐城ヶ谷遺跡は舊社川中流南岸、五十嵐丘陵裾部に位置しています。五十嵐丘陵には複数の寺社が置かれており、当遺跡に隣接して伊加奈志神社が、丘陵頂部には石清水八幡神社が存在し、中近世において石清水八幡神社の別当寺であった浄寂寺や栄福寺が展開しています。17 世紀に描かれたとされる『四国遍礼霊場記』掲載の絵図(13 ページ参照)には石清水八幡神社の社殿が描かれており、神社のふもとにあたる部分には「村」と示されていました。この「村」が当遺跡にあたるのではないかと想定し、発掘調査を行いました。調査の結果、当遺跡では 13

世紀を主とした中世の遺構を中心に、弥生時代後期の遺構や近世の遺構を確認しました。なお、実際の調査では当遺跡の北西部から順に調査区を 1～4 区に設定し、調査にあたりました。

弥生時代の遺構として、1 区から 4 区まで続く溝と弥生土器を包含する小穴 2 基がみつかりました。溝は地形に沿っており、丘陵から流れてくる雨水などを排水し、下部にある施設を守る意味合いがあった可能性があります。五十嵐城ヶ谷遺跡北東部には弥生時代の四村日本遺跡などが展開しており、おそらく同時期にこの地も利用されていたと考えられますが、後世の削



遺構をあわせて区画を意図していたのではないかと考えられます。このような規模の、規則性をもった区画溝を設けている事例は一般的な住居では少なく、当遺跡でみつかった区画溝と掘立柱建物は、なんらかの重要な施設であった可能性が考えられます。

そのほか特筆すべき点として、柱状高台付皿が多数出土したこと

平などにより確認できた遺構は先述の溝と小穴のみでした。

13世紀の遺構として、2区と3区で区画溝と掘立柱建物を発見しました。1号区画溝は2区で検出した溝でL字状をなし、幅1.8m・深さ30cmを測ります。位置関係から、櫛列とあわせて空間を区画していたのではないかと推測します。区画内部では掘立柱建物を2棟確認し、その大きさは1間×2間、北東部には庇がついていました。2号区画溝は逆L字状をしており、2区で屈曲して南東方向にのび、3区調査区外へ抜けます。幅は2m・深さ50cmを測ります。3区では2号区画溝の直交方向に長方形の不明遺構を検出しており、出土遺物の時期が合致することや位置関係から、2号区画溝と長方形不明

が挙げられます。柱状高台付皿は祭祀関連遺跡からの出土が多く、一般集落では出土事例が少ないことから祭祀用具と考えられています。

さらに石清水八幡神社の文献史料上の初見は、建長7(1255)年10月の「伊予国神社仏閣免田注進状写」(参照:『愛媛県史資料編古代中世』174号)であり、この文書からは、石清水八幡神社が13世紀からすでに重要な神社であったことが読み取れます。発掘調査からは、この地での活動が13世紀からあったことが明らかとなり、石清水八幡神社の隆盛の時期と一致します。

区画溝が発見されたこと、祭祀用具とされる土器が多数出土すること、石清水八幡神社の発展時期と遺跡の成立時期が同時期であること、石清水八幡神社のふもとに立地していることから、当遺跡は石清水八幡神社の勧請や隆盛にあわせて起こったと考えられ、石清水八幡神社に関連する施設があった可能性があります。

また、3区丘陵裾部で地下式坑2基を発見しました。地表から掘った堅坑を経て、方形の地下空間を設けています。1号地下式坑は堅坑から地下空間に向かってわずかに階段状になっているのに対し、2号地下式坑は堅坑直下に地下空間が形成されていました。1・2号地下式坑の



柱状高台付皿出土状況



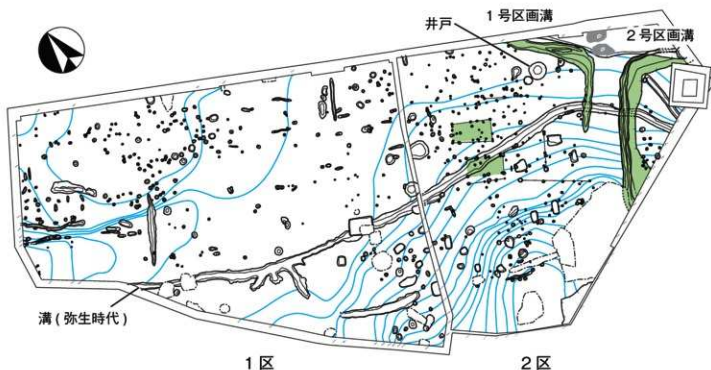
1号地下式坑



2号地下式坑

竪坑の最大径はそれぞれ 1.6m・0.8m で、方形地下空間の床面は 1.7m・1.8m、床から天井までは 1.2m・1.1m です。1号地下式坑は遺物が乏しかったのに対し、2号地下式坑からは永楽通宝(初鑄:1408年)を含む古銭を竪坑地表面で5枚、竪坑最下部で1枚を発見しました。床面には土壌化した有機質と繊維質が円形に面的に広がり、わずかに木質が散在していました。永楽通宝が出土したことから、少なくとも15世紀以降に埋没したと考えられますが、地下式坑の性格については判然としません。関東や九州の事例では、貯蔵施設や墓坑とされており、同様の性格である可能性があります。

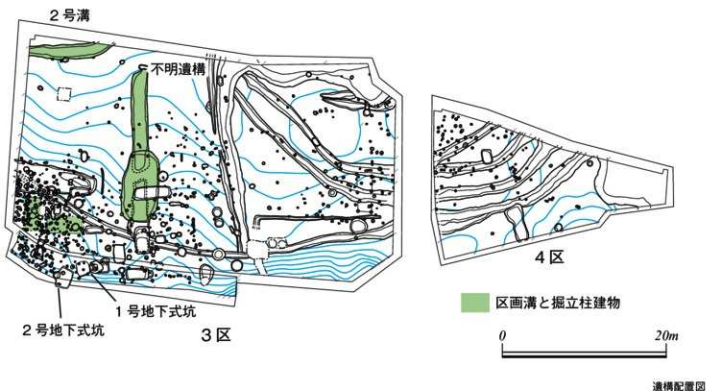
近世の遺構として、井戸や溝などを確認しました。井戸は石組みで、花崗岩を使用しています。掘り方の直径は2m、石組み内径は1.2m、深さは3.5m程度で、上部は後世の掘



乱によって石材が抜かれ、裏込め石と瓦や土器片が散在していました。井戸の内部からは、18世紀頃の陶磁器片が出土しており、少なくともこの頃に廃絶したと考えられます。その他に19世紀の陶磁器が出土した溝を発見しました。以上のことから、この地で13世紀から19世紀に至るまで長期的に人々の活動が行われていた可能性が高く、絵図が描かれた17世紀にも集落として利用されていたのではないかと推測できます。

今回の発掘調査では、五十嵐城ヶ谷遺跡には中世・近世ともに石清水八幡神社をはじめとする五十嵐丘陵の寺社に関連のある施設があった可能性がみえてきました。施設の性格については判然としませんが、広義の「門前町」として寺社と密接に関わり合いながら存続したと考えられます。

(山口)



G. 辻町遺跡 4次 調査

つじまちよじ

古墳時代の低湿地と中世の木棺墓

都市計画道路松山駅西口南江戸線建設工事

調査期間：令和6年5月～6月 調査面積：132㎡

担当者：石貫睦子 宮城めぐみ



中世 完墳状況

辻町遺跡は松山平野の中央部に位置し、西は大峰ヶ台丘陵、東は城山に挟まれた回廊状の低地に立地します。この一帯は宮前川の旧河道と微高地が入り組んだ複雑な地形で、小高い場所では古墳時代と中世のころに生活の場として利用されていたようです。

調査は松山駅からフライブルク通りに抜ける松山駅西口南江戸線の建設に先だって、令和3年度から断続的に実施しています。今年度は、令和5年度調査地の西隣にあたるA3区とA4区を調査し、中世と古墳時代の遺構と遺物が確認されました。

令和4年度の調査で、古墳時代集落の南東部には沼地が広がっていたことが判明しており、今年度の調査区もその中に含まれることがわかりました。集落から沼地へのおちぎわでは、多量の土師器や須恵器の完形品がまとまって出土し、祭祀行為に伴うものであると推測しています。今年度の調査箇所からも、点的にはありますが完形品の土器が出土しており、この祭祀遺構の縁辺部が検出されたものと考えられます。

中世では、墓1基と土坑1基、溝2条を検出しました。墓は、板材を組み合わせた木棺墓です。棺の底には、板材を縦横に配置しています。棺

の中には、土師器の杯2点が副葬品としておさめられています。また棺の外側からは、木製品が出土しました。浅い箱形をしていることから、折敷である可能性が考えられます。墓の主軸は西に25度傾いているものの、遺骸は北枕を意識していると考えられ、身体は西側に向けています。これまでに辻町遺跡で見つかった墓の多くもそうだったように、“頭北面西右脇臥”の埋葬姿勢をとっています。墓は14世紀のもので、水路とみられる溝を壊してつくられていることから、耕作地から墓域に変わったことがうかがえます。これまでの調査で、中世前半は居住区間が展開し、後半からは墓地として利用されるという傾向がつかめていますが、今年度の調査区も同じことがいえそうです。

(石貫睦子)



古墳時代の土器



中世墓(木棺墓)

H. 北吉田馬場遺跡

き た よ し だ は ば
い せ き

松山海軍航空基地関連施設

松山外環状道路空港線および県道余戸北吉田線建設

調査期間：令和6年4月～5月 調査面積：904.77㎡

担当者：藤本清志 岡美奈子 古谷里紗子



防空壕

北吉田馬場遺跡では、戦時中の松山海軍航空基地関連施設である防空壕とコンクリート製構造物の調査を行いました。防空壕は、「コ」の字形を呈するものと直線状のものの2基があり、コンクリート製構造物は丘陵上に2基ありました。

防空壕1は「コ」の字形を呈し、長さ約90m・幅約2m50cm・高さ約2m50cmです。壁部や天井部にはコンクリート型枠の痕跡が明瞭に残っており、壁の一部分では上半部が長さ約190cm・幅約17cm、下半部が長さ約380cm・幅17cmの木材が使用されていました。この上半部と下半部の境でコンクリートが水平に堆積しており、大きく2段階に分けてコンクリートが固められたことが分かります。なお型枠サイズは場所により種類が様々で、長さ約90～380cm・幅16～20cmを測ります。天井部は型枠痕跡から、長さ約152～153cm・幅7cm(一部14～15cm)の木材約42本をアーチ状に組んでいます。この型枠痕跡の、下から7～8目付近で壁と同様にコンクリートが水平に堆積した箇所があり、天井部のコンクリートも2段階に分けて固められています。

防空壕2は長さ約6m50cm・幅約2m50cm・高さ約2m50cmを測ります。防空壕1と同様に壁部や天井部にはコンクリート型枠の痕跡が残り、さらに奥壁天井部付近で厚さ約6cmの痕跡と

北壁・南壁の奥壁側で厚さ約3cmの痕跡が残っていました。これらの痕跡から防空壕の天井部に使用された型枠は、長さ約152～153cm・幅約7cm・厚さ約6cmの角材、壁部の型枠は長さ約190cm～380cm・幅約17～20cm・厚さ約3cmの板材であることが分かりました。

構造物1は、長さ約6m50cm・幅約1m60cmを測り、地表から地下へ降りるような構造で、地下室への通路と考えられます。構造物2は長さ約6m50cm・幅約1m60cmを測り、構造物1とはほぼ同様の構造です。地下室出入口付近で床面を確認することができ、高さは2mを測ります。地下室は天井部が崩落しており、調査を行うことはできませんでしたが、構造物1・2の位置や規模から、長さ約7m40cm・幅約5m20cm・面積約38.48㎡と想定されます。構造物入口天井部のコンクリートを一部破砕して鉄筋の状況を確認すると、径約2cmの鉄筋を約20cm四方の格子状に組み、交差部の一部は針金で結び合わされています。壁部分は天井部より細い径約1cmの鉄筋が使用されていたことも分かりました。

残された資料や他地域の類例を参考にすると、防空壕は兵舎や倉庫、構造物(地下室)は通信所もしくは指揮所として機能していたと考えられます。

(藤本)



防空壕1 コンクリート型枠の痕跡



作業状況(防空壕1)



コンクリート製構造物2

I. 北井門遺跡 9 次

きたいどくじ
いせき

弥生～古墳時代の集落

松山外環状道路インター東線建設

調査期間：令和6年12月～令和7年3月 調査面積：572.49㎡

担当者：藤本清志 寺嶋信三 古谷里紗子

遺跡通観(1次調査地と9次調査地)

北井門遺跡はこれまでに8回にわたって発掘調査が実施されており、今回の調査は9次調査となります。東温市樋口の日吉谷から始まる内川が重信川と並行するように流れており、その内川の北側に遺跡は位置しています。

調査地のはほぼ中央に道路(市道石井99号線)が通っており大きく分断されるため、この道路より西側を1区、東側を2区として調査区を設定しました。さらに調査地北側には住宅や店舗・駐車場などが隣接しており、出入口確保などのため調査を行うことが困難な箇所があり、1区は1a～1f区の6調査区、2区は2a・2b区の2調査区に分割して調査を実施しました。

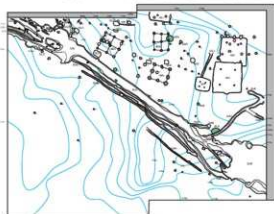
調査面積が約600㎡と狭小ではありましたが調査の結果、堅穴建物13棟・土坑12基・溝7条・柱穴または小穴74基を検出しました。これらの遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期・古墳時代後期(6世紀中頃)・中近世と考えられます。今回の調査地は1次調査地(MSK4・MSK6)の北側部分にあたり、1次調査では堅穴建物を

はじめとした多数の遺構が確認されていました。今回の調査で集落が北側へ広がることが確認でき、さらに北側への拡大が想定されます。

(藤本)



1d区 2号堅穴建物 紅土の土坑(下)・住み取具(上左・右)



北井門1次-4区(MSK4)



北井門1次-6区(MSK6)



遺構配置図(1次調査・9次調査)

報告書刊行に向けて作業中の遺跡

報告書刊行に向けての作業を私たちは「整理作業」と呼んでいます。

出土物に関して行う作業は、まず水洗いする「洗浄」・出土情報を直接書き込む「注記」・破片をつなぎ合わせて足りないところを石膏や樹脂で補う「接合・復元」・観察を行い図化して報告書に掲載できるようにする「実測・トレース」・「写真撮影」など多岐にわたります。

現場から持ち帰った遺構の測量図は全体および個別の遺構ごとにトレースを行います。

これらの基礎的な整理作業を行ったのち、遺物・遺構およびその他の情報をあわせて多元的に分析・検討しながら報告書を作成していきます。

整理作業中の遺跡

○新谷森ノ前遺跡 2次

担当者：桑 松 真 也 石 貫 弘 泰
神 野 実 首 藤 久 士
柴 田 主 子 中 野 邦 子
古 谷 里 砂 子

○新谷古新谷遺跡 2次

○新谷赤田遺跡

担当者：松村さを里 藤 本 清 志
西 川 真 美 土 井 光 一 郎
岡 美 奈 子 田 中 い づ み
富 山 華 紀 子

○別名端谷 I 遺跡 2次

担当者：青 木 聡 志 田 中 い づ み
岡 本 真 治 古 谷 里 砂 子

○北竹ノ下 I・II 遺跡

担当者：池 尻 伸 吾

○辻町遺跡 4次

担当者：石 貫 睦 子 宮 城 め ぐ み

遺物洗浄	遺物注記	接合・復元
遺物実測 (3D計測)	遺物実測 (3D計測)	遺構・遺物 情報確認
デジタル トレース	遺物写真撮影	報告書編集

洗



記



復



測



測



確



写



撮



編



古代いよ発掘まつり

速報展前期展
「ほったぞな松山2024」

愛媛県埋蔵文化財センター・
松山市立埋蔵文化財センター主催

II 普及活動事業

開催 期間	令和6年												令和7年											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	7/20(土)												9/16(月・祝)											
開催 場所	松山市考古館												見学者数 1,904名											

内容	開催日	開催場所	報告者	参加者数
「辻町遺跡4次調査の調査成果」	令和6年8月24日(土)	松山市考古館	石貫睦子(愛媛県埋蔵文化財センター)	53名



「古代いよ発掘まつり」は、平成24年度より愛媛県教育委員会・松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターとの連携事業として開催しています。

前期展「ほったぞな松山」は松山市内で前年度発掘調査が行われた遺跡の速報展で、愛媛県埋蔵文化財センターからは辻町遺跡を紹介しました。

辻町遺跡は令和3年度から発掘調査を行っており、一带には古墳時代と中世の遺跡があることがわかっています。令和5年度の調査では中世の溝や鋤溝の痕跡が見つかり、生産域が存在したと考えられます。展示では、調査写真パネルと過年度の調査で低湿地跡から出土した古墳時代の須恵器や土師器、木製品を紹介しました。

松山市埋蔵文化財センターからは桑原西稲葉遺跡6次調査の古墳時代須恵器、朝美辻遺跡4次調査の中世土師器のほか、久米高畑遺跡72次調査の狸の足跡のついた須恵器などが紹介されました。(松村)



松山市立埋蔵文化財センター主催

1 220-8

II 普及活動事業 23

今治平野と芸予諸島の遺跡からみえてきた 人々の交流・航路・船

～縄文時代から古墳時代～

愛媛県埋蔵文化財センター・
愛媛県生涯学習センター 共催

開催 期間	令和6年												令和7年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月			
	5/25(土) 7/15(月・祝)															
開催 場所	愛媛県生涯学習センター内 愛媛県人物博物館												見学 者数	985名		

学び舎ひめ 歴史・考古学講座 (愛媛県生涯学習センターで開催)

講座名	開催日	講演者	参加者数
第1回 「弥生人 芸予の海を渡る 一海からみた瀬戸内の弥生・古墳文化」	令和6年6月2日(日)	柴田昌晃 (愛媛大学埋蔵文化財調査室室長)	62名
第2回 「伊予から来た弥生の船」	令和6年6月16日(日)	伊藤実 (元広島県教育事業団埋蔵文化財調査室長)	65名
第3回 「原始・古代の人びとの航海 一誰が何をどのように伝え広めたのか」	令和6年6月30日(日)	谷若倫郎 (元愛媛県教育委員会文化財専門監)	48名



平成19年度より愛媛県生涯学習センターと共同で企画展を開催しており、令和6年度は、今治平野と芸予諸島の遺跡からみえてきた人々の交流・航路・船をテーマに展示を行いました。

愛媛県埋蔵文化財センターが行った本四架橋の発掘調査から、多々羅遺跡の製塩土器や馬島亀ヶ浦遺跡のサスカイト石材のほか、広島県福山市の御領遺跡から出土した船を描いた複合口縁壺などを公開し、縄文時代から古墳時代の人々の交流関係と原始・古代の瀬戸内航路や船について紹介しました。

(松村)

四国を掘る

—寺院と官衙—

四国地区埋蔵文化財センター
発掘へんろ展実行委員会

開催 期間	会場	開催 期間	見学者 数
令和6年 4月5日～7月15日	松山市考古館	令和6年4月27日(土) ～7月15日(月・祝)	見学者数 3,712名
令和6年 7月16日～9月16日	高知県立 埋蔵文化財センター	令和6年7月28日(日) ～9月16日(月・祝)	見学者数 1,168名
令和6年 9月17日～11月11日	徳島県立埋蔵文化財 総合センター	令和7年1月11日(土) ～3月9日(日)	見学者数 1,243名

展示解説会

内容	開催日	開催場所	解説者	参加者数
「今治地域の古代遺跡を中心に」	令和6年6月22日(土)	松山市考古館	首藤久士(愛媛県埋蔵文化財センター)	81名

全四国7会場 四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展

寺院と官衙

松山市考古館
4月27日(土)～7月15日(月・祝)
9時～17時
入館は無料です

観覧・聴講
ともに無料

① 4月27日(土) 10:00～11:30
② 5月18日(土) 10:00～11:30
③ 6月9日(土) 10:00～11:30
④ 7月15日(月・祝) 10:00～11:30

松山市考古館



今回の発掘へんろ展では、「四国を掘る—寺院と官衙—」として展示を行いました。発掘調査によって明らかになってきた古代寺院や官衙の姿を多彩な出土品から紹介しました。

当センターの調査例として、久枝Ⅱ遺跡・経田遺跡・阿方春岡遺跡・大小谷谷窯跡・馬島亀ヶ浦遺跡・別名寺谷Ⅰ遺跡・別名端谷Ⅰ遺跡の土器や陶磁器のほか、焼塩土器・埴・銅印・文字関連資料などを出品しました。寺院でのくらしや官衙で使用した道具やうつわ・装い・祭祀のほか、生産関連では窯業や製鉄、焼塩の様子などを取り上げました。

(首藤)

「今治道路関連埋蔵文化財発掘調査の成果」

新谷森ノ前遺跡

低位段丘に営まれた弥生時代のムラ

開催期間	令和6年	令和7年
	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月	
	4/22(月)	3/31(月)
開催場所	愛媛県埋蔵文化財センター 1階展示コーナー	
見学者数	211名	



「職場体験」

開催日	参加者数	開催場所	担当者
令和6年 9月10・11日(火・水)	2名 (松山市立南第二中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里 西川真美 田中いづみ 中野邦子 宮城めぐみ
令和6年 9月12・13日(木・金)	2名 (松山市立南中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里 西川真美 田中いづみ 中野邦子 宮城めぐみ
令和6年 10月17・18日(木・金)	2名 (松前町立松前中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村さを里 西川真美 田中いづみ 中野邦子 宮城めぐみ



C:宮之内遺跡



D:宮之内遺跡



現地説明会

遺跡名	開催日	開催場所	参加者数
A:北吉田馬場遺跡 発掘調査成果報告会	令和6年6月30日(日)	松山市立生石公民館 (松山市高岡町)	40名
B:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・ 五十嵐城ヶ谷遺跡 現地説明会	令和6年9月29日(日)	五十嵐城ヶ谷遺跡 (今治市五十嵐)	120名
C:宮之内遺跡 発掘調査現地公開	令和7年2月10日(月) ～14日(金)	宮之内遺跡 (西条市宮之内)	93名
D:宮之内遺跡出土 金銅舍利容器展示公開	令和7年2月19日(水) ～26日(水)	西条市立東予郷土館 (西条市周布)	800名
E:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・ 五十嵐城ヶ谷遺跡 成果報告会	令和7年3月2日(日)	今治五十嵐事務所 (今治市五十嵐)	52名



A:北吉田馬場遺跡



B:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・五十嵐城ヶ谷遺跡



A:北吉田馬場遺跡



B:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・五十嵐城ヶ谷遺跡



B:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・五十嵐城ヶ谷遺跡



E:石清水八幡神社参道(通路遺跡)・五十嵐城ヶ谷遺跡

III その他の事業

1. 出版物等への資料提供

提供資料	提供先	掲載物
宮之内遺跡：金銅舍利容器ほか写真 7 点・図 2 点	松葉電司 (考古学研究会誌への投稿)	『考古学研究 281(第 78 巻第 1 号)』『考古 Focus』 2024 年 9 月発行
辻町遺跡 4 次：土師器杯出土状況ほか遺構写真 3 点 ・土師器杯遺物写真 1 点・人骨検出状況図 1 点	松山市新玉公民館	『遊ゆうあらたま 改訂版』 2024 年度発行
別名端谷 1 遺跡 2 次：出土土師弁外線写真 1 点	木簡学会	『木簡研究 第 46 号』事例報告回版 2024 年 11 月 25 日発行
大久保遺跡：舶載跡造鉄器 写真 1 点 新谷赤田遺跡：鍛冶炉写真 1 点	株式会社 エディキュブ (株式会社 朝日新聞出版)	週刊朝日ムック『歴史道 vol.38「絵で見てわかる！日本の誕生と弥生時代」』 2025 年 3 月 6 日発行 印刷版・デジタル版

2. 展示会等への資料提供

提供資料	提供先	掲載物
余戸中の幸遺跡 3 次・6 次：遺構検出状況ほか遺構写真 10 点 余戸弘川遺跡 1 次：遺物出土状況ほか遺構写真 5 点 余戸柳井田遺跡 4 次・5 次、東垣生八反地遺跡 2 次： 井戸検出状況ほか遺構写真 7 点 南吉田南代遺跡 2 次： 完掘状況ほか遺構写真 4 点・焼化（黒色化）された土器写真 1 点 北吉田馬場遺跡：遺構写真ほか成果報告会展示パネル 8 枚	愛媛県歴史文化博物館	令和 6 年度テーマ展「松山外環状道路と道路の調査」写真および資料パネル展示、ホームページ・学芸員ブログ等掲載
元城跡：遠景写真 1 点・位置図ほか図 2 点	高知県立歴史民俗資料館 愛媛県歴史文化博物館 ※連携企画	令和 6 年度企画展「西南四国の中世社会と公家」 展示、印刷物・広報物・ホームページ等への掲載、私的利用を目的とした撮影

3. ウェブサイトほかへの資料提供

提供資料	提供先	掲載物
湯築城跡：遺構写真 2 点・遺物写真 2 点	公益財団法人 愛媛県文化振興財団	機関誌「文化愛媛 No.45」2000 年 10 月刊行 バックナンバー電子化に伴う著作権（公衆送信権）許諾

4. 調査研究に関する資料提供

提供資料	提供先	目的
「四国縦貫自動車道埋蔵文化財報告書-III-」に関わる測量成果 7 遺跡 14 点	四国中央市教育委員会	地理情報システムへの測量データ反映

5. 資料見学等の受け入れ

見学資料・目的	主体団体・講座など	実施年月日	人数	実施場所（対応）
発掘調査現地見学 (今治市朝倉・今治市五十嵐)	「マウンテン親子サイクリング & 乗り方教室 in 朝倉児童館」 (今治市朝倉児童館)	令和 6 年 11 月 24 日(日)	-	今治朝倉事務所 (石貫弘泰・沖野実・富山重紀子) 今治五十嵐事務所 (山口莉歩・堀田晴香)
センター 1 階 展示見学	ワークショップ「おとなの散歩道」 第 3 回「松山電気軌道の廃線跡を歩く」 【松山市文化創造支援協議会（松山市文化・スポーツ振興財団）】	令和 6 年 11 月 30 日(土)	-	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 1 階展示室 (兼松真也)
センターの施設、作業の見学	愛媛大学法文学部集中講義 博物館資料論 (担当：幸泉満夫准教授)	令和 6 年 12 月 26 日(木)	48 名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室 (兼松真也・首藤久士)
発掘調査現地見学 (西条市宮之内)	授業（社会科）の一環 (西条市立河北中学校 1 年生)	令和 7 年 2 月 19 日(水)	34 名	宮之内遺跡 発掘調査現場 (松葉電司・増田晴美・佐野祐樹)

6. 全国埋蔵文化財連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議の開催

内容	詳細	実施年月日	参加機関・人数	実施場所
全体会議・部会会議	デジタル技術等活用推進委員会（報告）・発掘調査事例報告（徳島県埋蔵文化財センター） 管理者部会・実務者部会	令和6年10月3日（木）	10機関 25名	道後 友輪荘
視察	五十嵐城ヶ谷遺跡 発掘調査現場見学	令和6年10月4日（金）	10機関 25名	五十嵐城ヶ谷遺跡 発掘現場 （今治市五十嵐）

7. 講演・講座等への職員派遣など

派遣内容	主催	実施場所	実施年月日	内容・対応職員
愛媛新聞カルチャースクール 「楽しく考古学入門編」	愛媛新聞社	愛媛県 生涯学習センター	令和6年7月13日（土）	「今治平野と葦予諸島の遺跡から みえてきた人々の交流・軌跡・船」 展示解説：松村さき里
		松山市考古館	令和6年9月14日（土）	「辻町遺跡4次調査の調査成果」 石貫綾子
			令和6年11月16日（土）	「宮之内遺跡の調査成果」 増田晴美
令和6年度 考古学リレー講座	松山市文化・ スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター	松山市考古館	令和6年7月6日（土）	「松山平野における古墳時代の鉄器 生産」 石貫弘泰
			令和6年8月3日（土）	「石器からみた弥生時代の松山平野」 栗松真也
令和6年度 みはま歴史講座 「～今こそ繙く故き・新しき若狭路～」	美浜町歴史文化館 （福井県）	美浜町歴史文化館 （福井県）	令和6年9月1日（日）	「古代若狭の海辺の景観Ⅱ～古代津波 と社寺から考える～」 松葉竜司
令和6年度 南予コミュニティカレッジ 「歴史講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 歴史文化博物館	令和6年9月7日（土）	「津島道路開通調査の成果」 藤本清志
令和6年度 コミュニティカレッジ 「愛媛の埋蔵文化財講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 生涯学習センター	令和6年11月12日（火）	「弥生時代の絵文土器」 山口莉歩
			令和6年12月3日（火）	「道前平野の遺跡」 増田晴美
令和6年度 「なきじん歴史文化講座」	今帰仁村 社会教育課 歴史文化センター （沖縄県）	今帰仁村 歴史文化センター （沖縄県）	令和6年11月15日（金）	「陶磁器からみた山北」 柴田圭子
令和6年度 「西条市考古歴史館考古学講座」	西条市考古歴史館	西条市考古歴史館	令和6年11月17日（日）	「西条市・宮之内遺跡と金銅舍利容器 をめぐって」 松葉竜司
令和6年度 愛媛県歴史文化博物館 「歴史文化講座」	愛媛県 歴史文化博物館	愛媛県 歴史文化博物館	令和6年12月1日（日）	「松山外環状道路空港線に伴う遺跡の 調査成果」 三好裕之
八幡浜市「歴史・文化探検」学習会	八幡浜市教育委員会	正月森 （八幡浜市古蔵）	令和6年12月7日（土）	踏査：藤本清志
お仕事フェスタ 2025	学校法人 河原学園	アイテムえひめ 大展示場	令和7年3月8日（土） ・9日（日）	職業紹介：栗松真也・石貫綾子 ・青木聡志・佐藤直人

8. 職員の委員等就任状況

職員名	委員名	期間
松村さき里	今治市 文化財保存活用地域計画策定協議会委員	第1回協議会（令和6年11月21日）から計画策定まで （令和6年度～令和8年度の約3年間）
	松山市文化財保護審議会委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日
	今治市文化財保護審議会委員	令和2年11月1日～令和8年10月31日
柴田圭子	砥部町文化財保護審議会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日
	史跡龍島城跡調査・整備検討委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日

9. 各種団体への職員派遣など

内容(依頼団体)	派遣先	日時	対応職員
北山遺跡出土陶磁器に関する指導 (「公財」鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター)	(「公財」鹿児島県 埋蔵文化財調査センター)	令和6年7月18日(木)・19日(金)	柴田圭子
16世紀日本の輸入品調査 科学研究費基盤B「16世紀西日本港町の構造 と相関-文献・考古学資料の国際・横断的 分析による-」(代表:岡美穂子) (東京大学史料編纂所)	バンコク国立博物館ほか	令和6年8月28日(水)~9月4日(水)	柴田圭子
史跡興道寺廃寺跡整備検討会議への参画 (美浜町教育委員会)	福井県美浜町歴史文化館	令和6年8月31日(土) 令和7年3月22日(土)	松葉竜司
伊予国府探索事業に対する協力・助言 (今治市教育委員会)	今治市教育委員会	令和6年9月5日(木)	松葉竜司・首藤久士
積善山遺跡・立石山遺跡の現地踏査 科学研究費基盤B「山城・山間に展開した 弥生時代の人間活動に関する実証的研究」 (代表:柴田昌晃) (愛媛大学)	越智郡上島町若城島 ・上島町生名島	令和6年10月18日(金)・19日(土) /11月29日(金)	栗松真也
史跡河後森城跡ほか 町内遺跡出土の陶磁器に関する指導	松野町 埋蔵文化財センター	令和6年10月31日(木) 令和7年2月25日(火)	柴田圭子
松山大学経済学部講義 「地域史(1)」・「地域史(2)」非常勤講師 (松山大学)	松山大学	令和6年度通年(前期・後期) 毎週木曜日4限	栗松真也

10. 図書資料の収集・登録・貸し出し

関係団体が発行する報告書・埋蔵文化財関連書籍等を収集し、登録・保管(令和6年度新規登録図書数:1,617冊・総登録数:82,912冊)のうえ、大学など関係者等への貸出を行った。

11. ホームページ・X(旧 Twitter)・YouTube による情報発信

公式ホームページ、令和3年度より運用を開始したX(旧 Twitter)、令和6年度より運用を開始したYouTubeチャンネルアカウントから、業務におけるトピックやエピソード、共催展の告知・報告、関連団体アカウントのリポスト、埋蔵文化財解説・紹介動画等の情報発信を行った。



発掘調査現地見学(西条市立河川中学校)



西条市考古歴史館考古学講座



八幡神社「はた・文化探検」学習会(西条)



お祭りフェスタ2025

IV 組織

役員等（令和7年3月末日現在）

理事

理事長	前岡 實知雄	奈良芸術短期大学 特任教授、法蓮寺(東蓮山)住職、奈良県立橿原考古学研究所 特別指導研究員
常務理事	篠原 年克	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 事務局長
理事	栗田 正己	聖カタリナ大学 非常勤講師・元松山東高校長・元県教育委員会文化財担当
	加藤 令史	愛媛新聞社 代表取締役社長 社長執行役員
	梅木 謙一	(公財)松山市文化・スポーツ振興財団松山市立埋蔵文化財センター所長 兼 松山市考古館長
	渡部 真司	愛媛県教育委員会 文化財保護課長
監事	宇都宮 欣毅	税理士

評議員

村上 恭通	愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター長、教授
岡田 敏彦	愛媛考古学協会 会長
足立 一志	松前町教育委員会 教育長
仲本 範之	愛媛銀行 常務取締役
目見田 貴彦	愛媛県教育委員会 副教育長

令和6年度職員（令和7年3月末日現在）

事務局長 篠原 年克

総務課

総務課長 (事務局長が事務取扱)	篠原 年克
専門事務員 ・担当係長	河野 有美
主任事務員	芳野 伸吾
事務補助員	芝 加納子

調査課

調査第一課長	三好 裕之								
調査第二課長	乗松 真也								
専門調査員 ・担当係長	松村 さを里	池尻 伸吾	松葉 竜司						
専門調査員	藤本 清志	石貫 弘泰							
主任調査員	西川 真美	土井 光一郎	沖野 実	首藤 久士	増田 晴美	石貫 睦子			
調査員	山口 莉歩	青木 聡志	佐藤 直人						
嘱託調査員	柴田 圭子								
主任調査助手	岡 美奈子	田中 いづみ	富山 亜紀子	寺嶋 信三	岡本 芳明				
調査助手	中野 邦子	佐野 祐樹	岡本 真治	古谷 里砂子	宮城 めぐみ	堀田 晴香			

令和6年度に刊行した書籍（調査報告書以外）

- 「紀要愛媛」第20号
- 「愛比売」令和5年度年報



<http://www.chime-maibun.or.jp>



<https://www.youtube.com/@愛媛県埋蔵文化財センター>



https://x.com/chime_maibun

え ひ め 愛比売

2024(令和6)年度年報
～発掘調査事業および普及活動事業の記録～

2025(令和7)年5月

編集・発行

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
〒791-8025 愛媛県松山市衣山四丁目68番地1
TEL(089)911-0502 FAX(089)911-0508
株式会社ハラブレックス

印刷



登録番号：3008034

愛媛県イメージアップキャラクター
みきゃん・ダークみきゃんと大型器台